

松本市の維持向上すべき歴史的風致

松本市は、北アルプス連峰や美ヶ原高原などの山並みを背景に望み、国宝松本城を中心とする約400年前に形成された町割や、歴史的建造物などの歴史的資源が四季折々の美しい表情を見せている。また、豊かな湧水による水めぐる城下町は、先人たちにより生まれ、受け継がれ、人々の営みが、道祖神を始めとするさまざまな習俗、祭礼といった文化的資源を心のよりどころとして継承されている。そして、これらが一体となって良好な市街地の環境が形成され、松本市固有の歴史的風致を生み出している。

道祖神にみる歴史的風致

道祖神は、ムラの繁栄につながる万能の神様として信仰され、道祖神を祭り繁栄を祈る習俗が市内各所で行われ、春を待ちわびる人々の心のよりどころとなっている。



道祖神



御柱



三九郎



近代登山にみる歴史的風致

槍、穂高連峰を始めとする北アルプスとなだらかな山容の筑摩山地の登山道、山小屋は、多くの登山者と色とりどりのテントで賑わい独特の山岳景観を醸し出している。



槍ヶ岳登山風景



徳本峠小屋



涸沢のテント



商都松本にみる歴史的風致

あめ市は商都松本の冬の代表行事で、市神様を祭り、一年の商いを占う初市が松本商人の知恵によりあめ市と名を変え、引継がれている。市神様の碑を中心に市が立ち、子供のあめを売る声が響き、新年の城下町に賑わいを見せている。



あめを売る子供たち



本町「御本社」市神祭

水めぐる城下町にみる歴史的風致

松本城下町は、湧水に恵まれた地に形成され、日常生活に用いられるとともに、酒造などの産業に利用されてきた。今も井戸は市民の活動に支えられ、水を汲む人々でにぎわいを見せ市民のかけがえのない宝となっている。



源智の井戸



「善光寺道名所図会」源智の井戸の挿絵

ぼんぼんと青山様にみる歴史的風致

祖先の霊を迎える風習であるぼんぼんは、近代には青山様を生み、城下町の風情が残る町割を舞台に、女の子の下駄の音と哀愁を帯びたぼんぼん唄、男の子の青山様の掛け声が聞こえ、松本の夏の風物詩として城下町の風情を高めている。



ぼんぼん



青山様

お船祭りにみる歴史的風致

村内を訪れる産土神の霊の乗物であるお船を曳きまわすお祭りで、残雪の北アルプスを映す水田のなかを神社に向かうお船は華麗で、お祭りが終わると田植えの季節を迎える。



拝殿を回るお船



町内を巡るお船

